



# 利益UPには ドライバーを効率的に活かすことが鍵

今回からスタートするこのコーナーでは、経営者や管理者が実践していくマネージメントのポイントを紹介していきます。今回は、ドライバーを効率的に活かして利益UPにつなげる具体的な施策について、船井総研ロジ株式会社の石川章弘氏に解説してもらいます。

## 付帯作業でドライバーの活用が非効率的に

現在、運輸業界ではドライバー業務の大幅な時間短縮が求められています。またドライバーの有効求人倍率は「2倍」を超える状況で、人材不足も年々顕著になっています。これらの状況のなかで利益を上げていくためには、ドライバーを効率的に活かしていくことが欠かせません。しかし現状では、上手く対応できていない運送事業者も見受けられます。

なぜ効率的に活用できていないのでしょうか。代表的な理由としては、下記のように「集配送時におけるドライバーへの負荷」があげられます。

- 積込み作業時における荷主企業施設内での作業負荷
- 納品先への納品条件に合わせた作業負荷
- 納品待機時間の時間負荷 など

これらは、ドライバーの拘束・運行時間に多大な影響をおよぼします。改善策としては、例えば軒先でフォークリフト操作をドライバーが行っている場合は、軒先の作業員に操作してもらうよう荷主企業に打診をすることです。本来、コンプライアンス上では「軒先渡し」が当たり前であり、フォークリフトの操作をドライバーが行うのは好ましくありません。しかし、荷主企業から要望されたり、少しでも早く荷下ろしを終えたいなどの理由により、ドライバーがフォークリフト操作をしている運送事業者がいくつか見受けられます。本来行う必要のない作業（契約にない付帯サービス）は行わず、荷主企業の協力を得て、本業に集中させることが、ドライバーを効率的に活かすための施策になります。

## 効率的な活用には人材定着が基本

若手・新人の定着率の低下も、ドライバーを効率的に活かせない理由です。定着率が低い（＝ドライバーの入れ替わりが激しい）場合、新人が入社する度に教育を行う必要があります。結果、教育に当たるベテランドライバーの生産性も低下させてしまうため、効率的な活用には程遠い状況になるでしょう。

離職してしまう理由としては、他社のほうが給与・福利厚生が良いというほか、「教育制度が充実」していることもあげられます。施策として、教育制度（企業理念の

共有化、添乗指導、ビジネスマナー・身だしなみ教育など）を充実させることで、若手・新人ドライバーは、自身が成長していることを実感するとともに仕事への愛着がわき、定着率向上に期待できます。それが浸透すれば、経験値の高いドライバーを効率的に活用できます。

以上がドライバーを効率的に活用し、利益UPにつながる施策になります。ぜひ荷主企業への打診や、ドライバー教育制度の構築に取り組んでみてください。